

課題解決型高度医療人材養成プログラム申請書
(看護師・薬剤師・その他メディカルスタッフ養成プログラム)

【様式C-1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	国立大学法人九州大学		
取組	2 - (3) - ②	申請区分	単独事業
養成する医療人 (取組2 - (3)のみ)	診療放射線技師、臨床検査技師		
事業名 (全角20字以内)	実践能力強化型チーム医療加速プログラム		

事業責任者 連絡先	職名・氏名	九州大学医学部保健学科長・教授・大喜雅文
	TEL	092-642-6701
	FAX	092-642-6701
	E-mail	ohki@med.kyushu-u.ac.jp
事務担当者 連絡先	職名・氏名	医系学部等事務部学務課補佐 座喜味 都孔
	TEL	092-642-6532
	FAX	092-642-6545
	E-mail	ijgsien@jimu.kyushu-u.ac.jp

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料（ポンチ絵A4横1枚）を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の高度化、患者のニーズの多様化、業務拡大を踏まえた、臨地実習前教育と臨地実習の充実 2. 臨地実習を効果的に実施するための実習指導者の養成と実習内容の充実 3. 大学教員と実習指導者の実践力強化と人材交流によるキャリア形成
<p>〈事業の概要〉（400字以内厳守）</p> <p>チーム医療を推進するために、大学教員と臨地教授ら実習指導者が参画する実践能力強化型チーム医療教育連絡会議を新設し、学部教育、医療人技術向上教育、実習指導者教育のプログラムを策定し実施する。【学部教育】では、学科内3専攻の相互教育と医療系統合教育研究センターによる3学部6学科の合同教育で職種間の相互理解を深め、医療従事者による実習前講義で臨地実習のさらなる充実を図る。高度化する医療と業務拡大へ対応するための科目やシミュレーション実習を設け、大学教員・医師・実習指導者が連携して実践型教育にあたる。【病院等で働く医療従事者】を対象として、医療安全管理や危険予知などを含めた卒後研修、および高い指導能力をもつ実習指導者を養成し認定する臨地実習指導者研修を実施する。さらに、大学と臨床現場との人材交流によりキャリア形成に寄与するとともに、実践力・教育力・研究力をもちチーム医療を推進できる人材を育成する。</p>

②大学・学部等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

九州大学医学部保健学科は、広い見識と深い人間理解を基盤とし、人の健康と幸せに貢献する人材を育成することを教育理念としている。このためには豊かな人間性の涵養に努めるとともに、社会の変化により生じる保健・医療・福祉への新たな要請にも応えうる知識と実践能力の涵養が重視される。また、保健学分野の将来を担う高度な実践者、教育者、研究者へと発展する優れた医療人を育成するために、「豊かな人間性を備えた人材の育成」、「高度化する医療に対応できる人材の育成」、「全人的チーム医療に対応する人材の育成」、「高齢社会の医療に対応した人材の育成」、「多文化共生社会における国際医療の場で活躍できる人材の育成」、「医療の情報化に対応する人材の育成」、「教育者、研究者へと発展可能な人材の育成」などを目標としている。

本取組では、特に、診療放射線技師と臨床検査技師がチーム医療に貢献するための卒前卒後教育内容の改良を実習生受入病院と共に考え、それらを実行することで、チーム医療に貢献する医療技術者を育成するとともに、実践的教育者ならびに持続可能な実習指導体制を構築する。このことは、本学部の教育理念に一致する。

③新規性・独創性

従来は、大学での臨地実習前教育、実習施設での臨地実習、一般病院での医療人研修を、それぞれが独立に行ってきた。しかし、本取組では実践能力強化型チーム医療教育連絡会議を組織し、構成員は大学教員だけではなく大学病院および臨地実習施設の指導的立場の医療従事者であることが特徴であり、本会議で一貫した指導体制を構築して臨地実習を実施し、さらに臨地実習指導者を養成し認定する。

本取組では、高度医療・チーム医療の実践と業務拡大に対応する学部教育を実施するとともに、実習指導者教育研修と医療人のための再教育体制を構築する独創性を持つ。本取組はチーム医療の実現を加速させる独創的なプロジェクトであり、全国へ普及できるモデル事業となる。

④達成目標・評価指標

1. 実践能力強化型チーム医療教育連絡会議を組織し、学部生の実践力を向上させるためのカリキュラムの改正などを検討する。
2. 臨地実習前教育を学部教育に組み込み、大学教員と、大学病院および臨地実習受入施設の指導者が指導にあたる。
3. 学生が臨地実習までに高度医療(含む、業務拡大に関する知識)を説明でき、模擬ファントム等を使ったシミュレーション実習を経験する。
4. 学生は医療系統合教育研究センターが実施する多職種合同教育を履修し相互理解を深める。
5. 実践能力強化型チーム医療教育連絡会議は、臨地実習指導要綱などを策定し、臨地実習指導者を指導する。
6. 臨地実習指導者研修を受講した臨地実習指導者を養成し認定する。
7. 医療技術向上を目指す医療人等が、医療人再教育プログラムを受講できるようにする。
8. 保健学科と大学病院の間での毎年それぞれ3名以上の人材交流を行う。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画、働きやすい職場環境、勤務継続・復帰支援等も含む。)

病院等に勤務する専門の医療従事者と大学教員の人材交流によりキャリア形成に寄与する。さらに、妊娠・出産・育児・介護などのために離職していた診療放射線技師や臨床検査技師が、医療の高度化、患者のニーズの多様化、業務拡大を踏まえた、臨地実習前教育と本取組で構築する医療技術向上・実習指導者研修プログラムを受講することで、高度医療技術や拡大された業務への対応を容易にし職場復帰を支援する。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式C-2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

1. 学内外の臨地実習関係者（大学教員、臨地教授、臨地准教授、臨地講師）による実践能力強化型チーム医療教育連絡会議（初年度は毎月開催、2年目以降隔月開催）を実施のコアメンバーとする。
2. 内部評価委員会は、上記会議の委員以外の保健学科に所属する複数の教授で組織し、透明性の確保と取組の質の向上に努める。
3. 外部評価委員会を設置し、評価と助言を受け、修正を行うことで取組の質を向上させる。

②事業の評価体制

内部評価は各年度1回行う。外部評価は3年目と最終年に受ける。

外部評価委員5名を以下に示す。

所属	職位	氏名
群馬県立県民健康科学大学	学長	土井 邦雄
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科	放射線診断治療学教室・教授	吉浦 敬
久留米大学病院	臨床検査部 部長・教授	中島 収
熊本大学医学部附属病院	中央放射線部・診療放射線技師長	橋田 昌弘
福岡大学病院	臨床検査部・技師長	川島 博信

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

本取組では、九州大学以外に、実習生の受け入れ実績がある国立病院機構九州医療センター、公益社団法人 労働衛生研究所（健診施設）などの地域の医療機関等が直接に実践能力強化型チーム医療教育連絡会議に参画する。この会議では、①臨地実習前講義の内容、実習カリキュラムの策定と高度医療実践力が強化できる臨地実習指導要綱の作成、②臨地実習指導者の評価基準の策定、③臨地実習指導者の認定、などを行う。このほか、九州地域放射線技師会、福岡県放射線技師会、全国診療放射線技師施設協議会、国立大学診療放射線技師教育施設協議会、日本臨床衛生検査技師会九州支部、福岡県臨床衛生検査技師会、日本臨床検査学教育協議会、などの関連団体と情報交換をするなどの連携を図りながら、メディカルスタッフ（診療放射線技師と臨床検査技師）に求めているチーム医療の実現を加速させる。

(2) 事業の継続・普及に関する構想等

①事業の継続に関する構想

年度ごとに実践能力強化型チーム医療教育連絡会議が自己点検を行い、さらに内部評価委員会の評価を受け、3年目と最終年には外部評価委員会が評価し、その結果を考慮した改善をしながら次年度の取組につなげる。5年間の取組が終了したときも、本取組で構築した実践力強化型プログラムを卒前および卒後教育で継続させ、さらに発展させることを、自助努力で行い、九州全域、さらには全国に波及させるプログラムを目指す。

②事業の普及に関する計画

1. 本取組の構想と成果は、保健学科のホームページを介して学内外に公開する。
2. 本取組の構想と成果は、地域のみならず全国診療放射線技師施設協議会、国立大学診療放射線技師教育施設協議会、日本臨床検査学教育協議会、各種学会などで、報告や発表を積極的に行い広報する。
3. 本事業に採択された他の施設と連携し、情報交換とプログラムの改善を目的とした交流会を2年目以降、毎年開催する。
4. 本取組に参画する国立病院機構九州医療センターは、独立行政法人国立病院機構九州ブロック(28病院)の本部であり、本取組で育成した実習指導者および指導体制の、九州沖縄全域への波及効果が期待できる。

(3) 事業実施計画

26年度	①	6月	カリキュラム改正のための検討を行う(秋に申請予定)
	②	8月	実践能力強化型チーム医療教育連絡会議の開催(初年度は毎月開催で8回)
	③	9月	模擬ファントム等の購入と、大学教員および臨地実習指導者のためのトレーニング内容の検討。
	④	12月	臨地実習前講義(仮称)の内容決定と資料作成・印刷、および臨地実習指導要綱の作成・印刷
	⑤	1月	平成26年度 臨地実習前講義(仮称)の試行
	⑥	2月	第1回 大学教員および臨地実習指導者のためのトレーニングの実施
	⑦	3月	内部評価の実施と、初年度報告書の作成と大学ホームページ上での成果の公開
27年度	⑧	4月	年度計画の確認のための実践能力強化型チーム医療教育連絡会議の開催(以後、隔月開催)
	⑨	6月	国立大学診療放射線技師教育施設協議会等での報告
	⑩	7月	第1回 臨地実習指導者講習会、医療人再教育研修会の開催
	⑪	10月	実習指導者のためのシミュレーション実習の講習会の開催
	⑫	1月	平成27年度 臨地実習前講義(仮称)の実施
	⑬	2月	第2回 臨地実習指導者講習会、医療人再教育研修会の開催と内部評価の実施
28年度	⑭	3月	年度報告書の作成と大学ホームページ上での公開
	⑮	4月	年度計画の確認のための実践能力強化型チーム医療教育連絡会議の開催(年4回開催)
	⑯	6月	国立大学診療放射線技師教育施設協議会等での報告
	⑰	7月	第3回 臨地実習指導者研修、医療人再教育の実施
	⑱	12月	実習前講義(仮称)の内容の改善と実習指導要綱の修正
	⑲	1月	平成28年度 臨地実習前講義(仮称)、医療人再教育の実施と、内部・外部評価の実施
29年度	⑳	2月	第4回 臨地実習指導者研修の実施と内部・外部評価の実施
	㉑	3月	年度報告書の作成と大学ホームページ上での成果の公開
	㉒	4月	年度計画の確認のための実践能力強化型チーム医療教育連絡会議の開催(年4回開催)
	㉓	6月	国立大学診療放射線技師教育施設協議会での報告
	㉔	7月	第5回 実習指導者研修、医療人再教育の実施
	㉕	12月	臨地実習前講義の内容の改善と実習指導要綱の修正
㉖	1月	平成29年度 臨地実習前講義と医療人再教育の実施	
㉗	2月	第6回 臨地実習指導者研修、医療人再教育の実施と内部評価の実施	
㉘	3月	年度報告書の作成と大学ホームページ上での成果の公開	

30年度	㉔	4月	年度計画の確認のための実践能力強化型チーム医療教育連絡会議の開催 (以後、隔月開催)
	㉕	6月	国立大学診療放射線技師教育施設協議会等での報告
	㉖	7月	第7回 実習指導者研修、医療人再教育の実施
	㉗	12月	臨地実習前講義の内容の改善と実習指導要綱の修正
	㉘	1月	平成30年度 臨地実習前講義と医療人再教育研修会の開催
	㉙	2月	第8回 臨地実習指導者研修、内部・外部評価の実施
	㉚	3月	実践能力強化型チーム医療加速プログラム成果報告会の開催と事業終了報告書の作成と、取組継続に関する検討
31年度 [財政支援 終了後]	①	4月	実践能力強化型チーム医療加速プログラムで構築した実習指導方針ならびに人材養成システムの報告書の配布と、取組継続の開始

教育プログラム・コースの概要

大学名等	九州大学医学部保健学科						
病院名・その他の連携先の名称等	九州大学病院、独立行政法人国立病院機構 九州医療センター、公益財団法人福岡労働衛生研究所						
教育プログラム・コース名	実践能力強化型チーム医療加速プログラム						
教育プログラム・コースの目的	医療の高度化、患者のニーズの多様化、業務拡大を踏まえて、学部学生の実習前教育と実習前トレーニングを充実させ、大学教員と医療技術者の双方が実践力強化を図るとともに、 <u>臨地実習指導者の養成により時代が求めるチーム医療の実践を加速させる</u> ことを目的とする。						
養成すべき人材像	日々進歩し多様化する先端医療技術と業務拡大に対応できる実践力を身につけ、 <u>チーム医療を実践できる診療放射線技師と臨床検査技師を養成するとともに、これらの人材を指導するための実務に精通した核となる実習指導者を育成する。</u>						
教育プログラム・コースに関連する今までの実績	<p>(1) 文部科学省 平成20年度～平成22年度「質の高い大学教育推進プログラム」医療現場との情報双方向性を持つ保健学教育（3専攻関与）</p> <p>(2) 文部科学省 平成21年度～平成25年度「大学改革推進事業 看護師の人材養成システムの確立」看護実践カブロッサム開花プロジェクト（看護学専攻と九州大学病院看護部）</p> <p>(3) 文部科学省 平成23年度～平成25年度「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立」（九州大学病院医療技術部等）</p>						
教育プログラム・コースの内容・実施方法・実施体制	<p>学部学生：高度医療実践教育プログラムとして、実習前に、他の医療職を目指す学生と共に学ぶ講義、高度医療や業務拡大を踏まえた講義、臨地教授等の実務者による臨地実習前講義、さらに臨地実習指導者によるシミュレーション実習を実行し、病院での実習で実務を学ぶ。</p> <p>実習指導者：医療技術向上・実習指導者教育研修プログラムとして、大学病院と実習生受入病院の臨地実習指導者となる者に対する医療技術向上と医療安全管理に関する講義と実習、さらに臨地実習指導者教育研修を実施する。</p> <p>教育内容は実践能力強化型チーム医療教育連絡会議が決定し、大学教員と臨地教授等が指導にあたる。連絡会議は一定のレベルに達した受講者を実習指導者として認定する。なお、平成28年度以降は受講生を保健学科ホームページで募集し、本プログラムの普及を図る。</p>						
受入開始時期	平成28年4月（平成27年実施の新しいカリキュラムで入学した学生が2年に進級する年月を学部学生の受入開始時期とする）						
受入目標人数		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	学部学生（2専攻）	0	0	70	70	70	210
	実習指導者	6	10	15	15	15	61
	診療放射線技師と臨床検査技師	0	15	30	30	30	105
	人材交流	4	5	5	5	5	24
計	10	30	120	120	120	400	



チーム医療の推進の課題

- ☆医療の高度化、患者のニーズの多様化、業務拡大に対応した臨地実習前教育と臨地実習の充実
- ☆臨地実習を効果的に実施するための実習指導者の養成による実習内容の充実
- ☆大学教員と実習指導者の実践力強化と人材交流によるキャリア形成

